

緑のまち



編集「北国分外環対策協議会」で検索
市川市北国分 4-8-6 佐々木方
TEL 047-371-9528
<http://midori.kuuki.info>
ishitaka6648@gmail.com

——北国分だより——

第127号 2019. 4. 10発行

第49回北国分外環対策協議会総会（解散会）

日時：2019年4月28日（日） 10時～12時
場所：小塚山研修所 2階 第2和室

第一部 10：00～11：00

—オープニング—

朗読とコーラス 外環運動の中で生まれた創作曲集
出演 緑のまち合唱団 ピアノ 新谷みゆき先生

—はじめに—

28年前外環の凍結再検討を掲げて発足した超党派の住民運動の中で、あふれる想いを歌にした作詞者・作曲者の思い出

《 議 事 》

- ◎年間活動報告
- ◎会計報告 会計監査報告
- ◎意見交換



第二部 11：00～12：00

—新しい会の発足について—

48年前、市川市を南北に縦断して、外環道路が通ることがわかったとき、沿線住民の運動として、北国分にも外環対策協議会がつけられ、以来変わることなく問題に取り組んできました。外環が開通した今、その役目をひとまず終え、古くから緑が形成されている国府台風致地区のひとつである北国分の環境を今後も守り、その他様々な問題を話し合う場を考えていきたいと思います。

—エンディング—

歌 「手のひらを太陽に」「ふるさと」「さようなら」



——「ひとつの署名」—— 作詞：森 遊子（小沢 剛） 作曲：戸塚 亨

48年前（1971年）外環路線を書き込んだ地図を手に、一人の市議員が沿線住民の所にやって来て青空集会を開いた。当時は車や工場などの排ガスにより光化学スモッグが頻発し、健康被害が続出していた。外環計画の実体をはじめて知った住民は、計画の凍結再検討を求め署名運動に取り組んだ。

——「この緑いつまでも」—— 作詞：森 遊子（小沢 剛） 作曲：中村盈子

41年前（1978年）住民は12万4千名の署名を添え千葉県知事に陳情。住民運動が自治体を動かし16年間（1971年～1987年）自治体ぐるみの反対運動が続いた。しかし34年前（1985年）東京湾横断道路建設が契機となり、千葉県議会の反対が覆った。それから2年（1987年）国は高速部を半地下とする変更案を提示した。「外環から人々の暮らしや緑を守ろう」と止むに止まれぬ思いから生まれた歌。

——「人が好きだから」—— 作詞：森 遊子（小沢 剛） 作曲：中村盈子

26年前（1993年）市川市は外環受入れに態度を変えた。それから3年（1996年）国は住民の反対を押し切り、構造変更案の都市計画を決定。地権者から買収した土地には、次々と青い金網が張られていった。

——「森よとわに」—— 作詞 作曲：三宅佳子

外環計画の真上にある小塚山は美しい里山で住民運動のシンボル。「この森よとわに」と願って歌は生まれた。森の音楽会のオープニングの歌になった。

——「冬から春へ」—— 作詞：森 遊子（小沢 剛） 作曲：中村盈子

30年に及ぶ外環運動の中で、時には灰色の寒い冬のように重く、辛く、たじろぐこともあったが、あきらめず希望の春を願って生きていこう。

——「明日をひらく」—— 作詞：森 遊子（小沢 剛） 作曲：中村盈子

21世紀、車優先から環境重視へと時代は変わってきている。さあもう一度未来のために、夜明けを告げる歌を高らかに歌おう。

——「三番瀬のうた」—— 作詞：森 遊子（小沢 剛） 作曲：中村盈子

25年前（1994年）三番瀬を横切る第二湾岸道路を地域高規格道路の候補に指定。東京湾最奥部ある干潟・三番瀬は、渡り鳥や水鳥・魚貝類の宝庫である。

18年前（2001年）全国に広がった市民運動で埋め立ては白紙撤回となる。しかし国は建設を具体化するため今年道路検討会を立上げ、三月第一回会議を開いた。市民による三番瀬保全のための「ラムサール条約」登録運動は続く。

小塚山のオオタカ



小塚山のオオタカを守る会 岡崎勝吉

小塚山にオオタカが営巣をはじめ、今年で6年目になります。今年も3月上旬から交尾が見られ、枯れ枝を運んでいつもの巣を補強していますので、4月上旬には卵を産むことでしょう。毎年2、3羽の雛が孵り、初夏に響き渡る幼鳥のピーヨ・ピーヨという鳴き声は、地元の風物詩のようになりました。8月中頃の巣立ちまで、幼鳥とは言え猛々しいオオタカの姿が今年も見られることでしょう。以前は、国府台緑地で2、3年営巣が確認されていますので、ここのタカが小塚山に移ったのではないかと想像されます。

オオタカのつがいは、一生連れ添うのではなく、年によってペアが変わると言われていますが、小塚山の場合、メスは5年間同じですが、オスは2年ごとに変わっています。ただ、今年は今のところ両方とも昨年と同じかどうか判別できません。今年のオオタカは非常に用心深く、人の気配で直ぐ逃げてしまい写真も撮りにくいからです。

よくオオタカは何を食べているのか聞かれますが、ここのオオタカの獲物は主に鴨類、鳩、ムクドリ等でスズメ等の小さな鳥は捕らないようです。狩場はこのような獲物の豊富な矢切の畑から里見公園に続く江戸川沿いの緑地や東側は貝塚公園、さらに国分調節池まで広範囲に渡り、食糧調達には恵まれた所です。こんな条件に加え、小塚山近辺が外環道工事のため立ち入り禁止になったり、樹木が移植されたりして、タカの棲みやすい環境になったのでしょうか。道路建設という環境破壊の一方で部分的にはこんなことが起こるとは皮肉なことでもあります。オオタカは鳥類生態系の頂点にたつ鳥です。このオオタカが棲める環境には他の様々な鳥達も棲息し、またやって来るのです。したがって、小塚山には、猛禽類では、ツミ、チョーゲンボウ、フクロウ等、また、南方から渡ってくる渡りのタカ「サシバ」も通過して行きます。季節でやって来る野鳥には、アカゲラ、カケス、ツツドリ、ツグミ、シロハラ、カワラヒワ、モズ、シメ、ウグイス、ルリビタキ、ジョービタキ等があります。ブッポーソーが来たこともあります。また、ここに棲みつき繁殖している野鳥はエナガ、シジューカラ、メジロ、コゲラ、ヤマガラ等お馴染みの小鳥達です。それにスズメ、ハト、カラス。

